

別添 橋渡し研究戦略的推進プログラム 事後評価結果（シーズ B）

課題管理番号	20lm0203113h0001	橋渡し研究支援拠点	九州大学
研究開発課題名	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイルス検査法による感染症診療の臨床性能試験		
研究開発担当者 所属 役職 氏名	国立大学法人鹿児島大学 教授 隅田 泰生		

【評価点】

○総合評価点 10.0 点中 8.0 点

【評価委員会のコメント】

※事後評価にあたり、様々な視点からご意見をいただいておりますため、委員によって意見が異なることもございます。

下記はそれらの意見を個別に転記したものであり、評価委員会として議決した統一見解ではありません。

○強み（評価できる点、推進すべき点）

- ・インフルエンザ測定キットも新型コロナウイルス測定キットも主任研究者のオリジナルなアイデアであり、薬機申請され、すでに保険収載をされている点は非常に高く評価される。主要特許申請は済み、企業との連携も非常に順調に行っている。
- ・新型コロナ及びインフルエンザ検査キットの保険収載がなされる等、素晴らしい成果をあげていただいていると考える。
- ・インフルエンザの臨床性能試験は完了し、承認申請に進んでいる。インフルエンザと新型コロナの唾液検体を用いて同時に検査できるキットの開発を行い、承認され、保険収載されている。（当初の計画にはなかった。）

○弱み（疑問点、改善すべき点、その他助言等）

- ・室温保存可能な PCR 試薬の開発は予定から遅れたが、年度中には達成できる見込み。